-季刊-

01

FUKUYA
in KOCHI

2024.12

TAKE FREE

Fuu

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

［特集］ 冬を、たのしむ。

フリーマガジン「 Fuu ］
編集 ／ フクヤ建設株式会社 (担当) 広報課 石川 藍
デザイン／ 2.0design 高木恵里
写真 ／ エム・フォトオフィス 前田実津

［ 発行元 ］

フクヤ建設株式会社

〒781-0015 高知市薊野西町3-35-29
088-845-4618
fukuya@fukuya-h.co.jp
@fukuya.kochi
フクヤ建設

フクヤ建設の家、ひと、暮らしを伝える
フリーマガジン「Fuu」は、2023年6月にはじまり、
月刊で計12号を発行させていただきました。
そして当社のはたらきを、より色々な角度から
お伝えできるよう、季刊発行へリニューアル。
これからも、手にするかたの暮らしに“新しい風”を
吹かせられるような、あたらしくたのしい誌面を
つくっていきたいと思います。

CONTENTS

特集

［住まい手インタビュー］
どんなふうに、暮らしていますか？ 03 - 08

時をつむぐ暮らし 09 - 10

「まち」をつくる 11 - 12

あのひとの飾り方 13

すまいとこそだて 14

フクヤで働く 15

社長の本棚 16

melbaの、おやつ 17

特集

冬を、たのしむ。

暗くてさみしいイメージを持たれがちの冬ですが、寒い冬だからこそ感じられる、癒しやあたたかさがあります。たとえば、家族で暖をとるとき。冬仕様のインテリアでお部屋を彩るとき。静かに読書をするときなど…。気持ちまで温かくなるような、冬の“たのしさ”のほうに、目をむけてみましょう。

特集

どんなふうに、暮らしていますか？

interview

手間だけど、たのしい。暮らしのまんなかに薪ストーブのある家。

慣れた手つきで薪をくべるご主人。田舎育ちで慣れ親しんだ昔ながらの〝火のある〟暮らしに前々から憧れを持っており「家を建てるなら薪ストーブを入れたい」という想いが強くあったのだという。念願叶って、薪ストーブを設置した新居へ引っ越してから、二度目の冬を迎えようとしていた。この日は、今シーズンはじめての火入れ。オフシーズンに行ったお手入れには、ずいぶん苦戦したようですが「1年で結構汚れていて…。ガラスも真っ黒になっていました。想像以上に大変な作業でしたが、元々機械いじりやDIYなど手のかかるものが好きなので、そこまで苦には感じませんでした」と、手間すらもたのしんでいる様子だ。

家族だけでなく、まちのなかの冬の風物詩に。

火がつくと、じんわりと暖かい空気が広がり、ぱちぱちと薪がはぜる音とともに、部屋中に木のいい香りが。この香りは、煙突から外へも漂う。ご近所さんの反応が、当初は気がかりだったというが、意外にも「懐かしい香りがいいね」とうれしい声をいただけたこともあったのだという。

「今年は庫内の掃除しかできていないのですが、来年は煙突の掃除もしたいと思っています。業者へ頼むと高額になるので、機材をレンタルして自分で屋根に上ってやるつもりです」と意気込むご主人。きっと、木の香りだけでなく、煙突掃除の光景も、家族や周りに住むひとたちにとって、あたたかな冬の風物詩になっていくことでしょう。

趣味と暮らす

まるで、小さな秘密基地。

玄関脇にあるご主人の趣味部屋は、まさに男のロマン。2帖ほどのわずかな空間のなかに、デスクと収納棚、ロフトベッド、さらにはプロジェクタースクリーンまで備わっている。「釣りや登山、DIYの趣味もあるので、何かと物が多くて…。すでにスペースが足りないなと思いつつも、この狭さが小さな秘密基地のようで気に入っています」と話した。なんと、ロフトベッドはDIY。OSB合板の壁でラフに仕上げられた内装だからこそ、気のむくままにDIYを加えることができるのだ。近頃は、新たに設置したプロジェクタースクリーンで、休日やすきま時間にYouTubeの動画鑑賞をするのが至福の時間なのだという。「片付いてなくて恥ずかしい」と謙遜するご主人だが、好きなものがぎゅっと詰め込まれたあえて雑多な雰囲気が、とても魅力的にうつった。

飽きのこない薪ストーブ、ドブレ640WD。

友人宅が設置していたことがきっかけで出会った、ドブレ640WD。気になる他メーカーもあったものの、性能・デザイン・コストパフォーマンスといったトータルスバランスに優れたドブレストーブを選んだ。クラシック感とシンプルながら力強い魅力を持つドブレ640WD。「炎が主役」がコンセプトというだけあって、大きなフロントウィンドウから見える炎が存在感を放っている。使いやすさにもこだわりがあり、1本のレバーで給気コントロールができるシンプルな構造で、初心者でも簡単に操作できるのだという。また、天板や庫内を使ってさまざまな料理にも活用できるのも魅力のひとつ。昨年は、家族で焼き芋を楽しんだのだとか。

ドブレWDシリーズの詳細や資料請求はこちら

火と、ともに育つ。

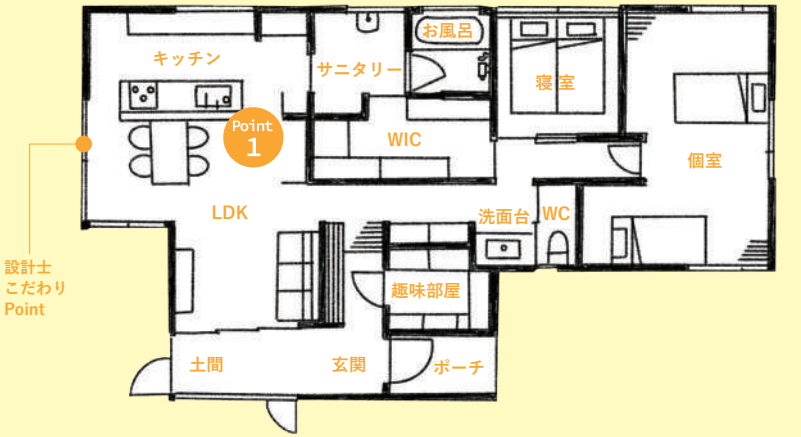
手間や火傷の心配から、子育て中は特にハードルに感じがちな薪ストーブ。しかし、ご主人は「火に触れる機会のなくなった今だからこそ、火をもっと当たり前に感じてほしかった」と、あえて薪ストーブのある暮らしを選択した。実際、子どもたちも本能で「熱い＝危険」を察知して近づかないものなのだそうで、そうした体験からの学びが、子どもたちの生きる力の土台を育んでくれているのを感じられる。また、ご実家お手製の薪を通して、祖父母と孫のコミュニケーションも生まれているというのも微笑ましい。

薪ストーブは家族にとって、暖を取り癒されるだけのものでなく、学びやコミュニケーションのきっかけとして、無限の可能性を秘めている。

井上様邸

家族構成 / ご家族 5人
施工年 / 2023年 7月
延床面積 / 28.24坪
構造 / 木造平屋建て

［間取りのこだわり］



Point 1

3児の子育てをする井上さまご夫婦がこだわったのは、キッチンを中心とした家事導線。キッチン近くに水廻りを集約し、平屋を活かした回遊性のある間取りに。また、家事をしながら子どもの様子を見守ることができるように、キッチンとリビングが配置されている。明確にパブリックとプライベートを分けつつ水廻りとつないだ家事動線のおかげで、最小限の家事で、快適に暮らすことができるようになったのだとか。

設計士のこだわり *Point*

高台からの景色を切り取るダイニング窓

見晴らしのよい「高台にあるからこそ」の、ロケーションを活かした開口計画には特にこだわりました。リビングには、掃き出しの大きな窓を取るのが一般的ですが、薪ストーブのある土間を取ることが当初から決まっていたこともあり、リビングには窓を取らずに土間空間と繋ぎ、あえて景色の開けた西側のダイニングに大きな窓を取りました。敷地の西側は、高台にあるからこそ、隣地からの視線も気にすることなく、空や街並みを一望することができます。目の前の公園には、桜の木も。四季折々の景色を切り取る窓を、暮らしのなかで楽しんでもらえていたら嬉しいです。 / 設計担当 竹村 春香

当時は珍しかった マンションのスケルトン リノベーション

マンション購入から25年経った頃、子どもが県外へ進学したことでライフスタイルが大きく変化。住み替えも考えたが、生活圏を変えずに暮らしを変えられるスケルトンリノベーションを選択したのが10年前。当時はまだマンションリノベーション自体が珍しく、住民の理解を得るのに苦労をしたのだとか。リノベーション前は、昔ながらの一般的なマンションの仕様で、キッチンも閉鎖的。収納が少なく、動線なども不便に感じるところが多くあったそうで、構造と関係のない壁は撤去して水廻りの位置を変えるなど、使いやすい間取りに作り替えたのだとか。

After POINT

［趣味のインテリアを存分にたのしむ飽きのこない普遍的で美しい住まい］

POINT 01

リビングダイニングと つながる開放的なキッチン

以前は閉鎖的で、収納も少なく一番に改善したいポイントだったというキッチン空間。上部の壁を撤去することでリビングダイニングと繋がり、キッチン奥まで光の届く開放的な空間に。背面には、既成品のホワイトカラーの収納も設置して、明るくすっきりと使いやすい理想的なキッチンに仕上がった。

POINT 02

北欧インテリアの馴染む シンプルな内装

北欧テイストの家具やインテリアなど、奥さまの美意識とセンスが散りばめられたLDK空間。リノベーションで、床材をタイルカーペットから木目調のフローリングへ変更したことで、インテリアがぐっと馴染むように。リノベーション後は、アートや雑貨など、季節ごとのインテリアコーディネートを存分にたのしめるようになったのだとか。

POINT 03

お気に入り家具を ぴったりと収める

インテリアショップで一目ぼれをしたチェストに、後から同じ作家さんに依頼してサイドに食器棚をオーダーしたという、経年変化の楽しめるメープル材の収納家具たち。リノベーションを機に、この家具がぴったりと納まるようにキッチン壁の位置を調節したのだという。壁面にぴったりと納まることで、空間の質が一気に引きあがっている。

時を つむぐ 暮らし

高橋様邸

家族構成 / ご夫婦２人
リノベーション施工年 / 2014年 11月
構造 / 鉄骨鉄筋コンクリート造
延床面積 / 68.82㎡（内法）

「まち」をつくる No.01

まるで別世界の静かで落ち着いた空間

高知市吉田町にあるビルの一角に、ひっそりと佇む「balloon」は、客席数も少なく落ち着いた静かな空間で、本格的な創作フレンチとワインのペアリングを楽しめる隠れ家的レストラン。東京出身で、東京で腕を磨いたシェフが、奥様の故郷高知でお店をひらいたのは5年前。高知での開業を考えはじめた頃、たまたま目にしたこの建物に不思議と惹かれ「高知でお店をひらくならここ」だと直感したのだとか。店舗の改装にあたり、知人から紹介してもらったのは、東京と高知の二拠点で活動する矢野建築設計事務所だった。インテリアに精通した奥様の選んだ椅子と照明を軸として創り上げた空間のテーマは「自宅に招き入れ、リビングで気兼ねなく食事ができるような空間」。オープンキッチンに、カウンター8席、4名掛けテーブル1席と2名掛けテーブル1席のゆったりとした空間には、洗練されたなかにも、どこか安心するあたたかさが感じられる。

お料理は、12,000円コースの料理一本。季節と地産の食材を自ら厳選し、創作された料理は、県内外のお客様の目を舌を喜ばせている。また、記念日など特別な日のお食事に来られるお客様が多いため、料理の味わいを深め、特別な席にふさわしい華やかな雰囲気を演出してくれる「ペアリング」も人気のひとつだ。

balloon

店舗設計 / 矢野建築設計事務所
施工年 / 2018年 12月
構造 / 鉄骨造
専有面積 / 95㎡
施工 / フクヤ建設+ライフカラーズ

空間の軸となるインテリアデザイン

よりプライベートな空間でゆっくり食事を楽しんでいただくため、昨年オープンした店舗隣の個室。ホテルラウンジをイメージしてつくられたという優雅で特別感のある空間には、インテリアデザインにもこだわりが光る。

照明

イサム・ノグチのペンダント照明「AKARI」。岐阜提灯からインスピレーションを受けて造られた、和紙と竹ひごのシェード。月の光のような柔らかな光が印象的。

カーテン

クリエーションバウマンの防音・遮音カーテン。スイス品質の高品質のカーテンで、音の漏れと侵入を防ぎ独立した空間をつくることができる。色やデザインも豊富なため、窓面の他、ピアノ練習室の音響調整やオフィスの間仕切りなどにも使われる。

椅子

まるでホテルのロビーに置いてあるような、一人掛けの高級感のあるモダンソファ。包みこまれるような素材やフォルムで、リラックスした贅沢な気分を味わえる。

テーブル

高知で無垢材を主としたオーダーメイド家具を製作する工房COMMON MFG. で、オーダー製作をしたテーブル。チーク材の暖かみのある色味と独特の木目が、エレガントな雰囲気を演出している。

独特の世界観のあるウェディングを

今年の3月から、元スタッフである専属のウェディングプランナーと共に、新たにウェディングをはじめたballoon。すでに数件のウェディングパーティが行われ、徐々に人気を集めている。10名ほどの小規模なパーティだからこそ、演出やお料理のクオリティにもこだわり抜き、アットホームで今までにない独特の世界観をつくり出すことができるのだという。また、ウェディング以外の小規模なパーティでの貸切も可能。オーナーの田嶋さんご夫婦は「長寿祝いなど、家族やグループで、心置きなくわいわいと食事をたのしんでくれたら嬉しい」と話した。

balloon

〒780-0048
高知県高知市吉田町 2-10
TEL / 088-802-7744
営業 / 18:00 ～ 22:30
休日 / 毎週日曜日

ご予約は電話又は HP よりお問合せください。

web サイト

すまいとこそだて

テーマ「たのしい冬の食卓」

鉄鋳物のたこ焼きプレート(IH・ガス 兼用)は、和平フレイズのもの。16穴で、奥行き23cm・幅19cmと小さめなので、お手入れもしやすいところもお気に入り。

文 / フクヤ建設 広報課　石川 藍

あたらしくカセットコンロ用のたこ焼きプレートを買って、家族で数年ぶりのたこ焼きパーティをした。焼くのが上手な夫が、目の前でくるくる回し焼きをする様子に子どもたちは目を輝かせていた。ふだんは子どもたちの偏食や遊び食べについ神経をすり減らしてしまうわたしも、パーティだと割り切ることで気がゆるみ「今日は特別ね」と子どもたちの大好きなチーズを沢山入れたたこ焼きを、なにも考えず一緒にたのしく頬張ることができた気がする。

「まだ食べられるひと〜!」という夫の問いかけに「は〜い!」と手をあげ無邪気に答える子どもたちの姿に、じぶんが幼かった頃の食卓風景を思い出しノスタルジーに浸る。美味しいが結びつけるうれしい記憶は、こうやって生き続けてくれるのだと感じた。温かいごはんが美味しいこの季節だからこそ、今年はもっとみんなでつくる卓上料理を楽しみたいと思った。

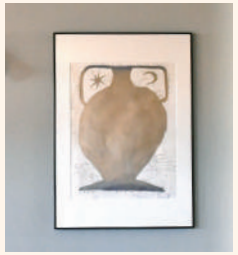
あのひとの飾りかた

interior coordination

光の美しい高知を拠点にして、絵画作品やセラミックオブジェなどを制作・発表する他、壁画やグラフィックデザインの依頼制作も行っています。

画家　上村　菜々子 さん

絵を、暮らしに調和する。



当社で新築をしたお宅へ、オーダーメイド絵画を納品する話を聞きつけ、画家の上村菜々子さんの自宅一角にあるアトリエに伺った。アトリエの壁には、窓から入るひかりを受けてきらきらと輝くゴールドの絵の具をつかった作品が、いくつも並んでいた。その作品らは、今回のオーダー制作をきっかけに生まれたものなのだという。ふだんは企業からの屋内外の壁画制作が中心で、個人宅のオーダーメイド絵画の受注ははじめてということもあり、建築中から何度も打ち合わせを重ね、納品する絵画を含め4つの作品を制作。迷った末に依頼主の選んだ作品には、大きな器のようなものの周りに「ｏｈａｙｏ」「ｏｙａｓｕｍｉ」などと、身近なあいさつの言葉も。「生活していると、いいことも悪いことも起こりますよね。機嫌が悪いときでもあいさつはできる。家族にとって大切な言葉だなと思って描きました」と、上村さん。おまじないのような親しみやすい表現は、絵を、暮らしに調和するきっかけのように感じられる。壁画制作で培われた、暮らす場所、ひと、ひかりに調和する上村さんの絵には、個人宅にもぴったりと馴染むやさしさがあった。

【オーダー方法】
インスタグラムのダイレクトメッセージ又はメールにてお問合せください。
kamimurananako@gmail.com

@kamimurananako

フクヤで働く、フクヤと働く

File 01

高松支店　BATON DESIGN WORKS
一級建築士事務所
設計士　岡村 拓

Q 高松支店、二人体制は大変ですか？

A “設計して、造る”シンプルな二人体制は、じぶんには合っていると感じています。

昨年あらたに設置された高松支店で、設計士として働く岡村は、入社11年目。入社後は、申請や実施業務の下積みをしながら一級建築士を取得。そして、プランナーデビューから5年ほどでの転勤だった。高松支店は現在岡村の他に、現場監督の谷の二人体制で、営業スタッフはいない。そのため、すべての相談に岡村が専属の設計士として最初から最後までお客様と打ち合わせをして、家づくりの流れすべてに関わっている。

〝設計して、造る〟シンプルな二人体制は、細かな部分までマイペースにこだわりたい岡村には合っていたようで「未だに難しさは感じるけれど、じぶんの提案が受け入れられて形になることにやりがいを感じる」と話した。現在、支店の設置から1年半ほどですでに展示場1棟、個人宅3棟が完成している。そして、そのどれも独自の美意識を感じられる設計で、丁寧に検討されたデザインであることが分かる。心地よい働きかたのなかで磨かれた設計力は、今後高松で少しずつ、ひとを惹きつけていくに違いない。

社長の本棚

第一回

時代は違がえども変わらないもの

『社長の本棚』と言うコンテンツをやりたいんです」と広報の石川から相談があった。本は読む方なので、紹介すること自体は困らないけど折角の機会なので、今の時代言葉にすることが難しいことを本の紹介という形で伝えるのもありかなと思った。

今回紹介したい本は「渋谷で働く社長の告白」である。著者の藤田氏はウマ娘、AbemaTVなどを世に送りだしたサイバーエージェントの社長。2000年に東証マザーズに当時最年少の26歳で上場。翌年、日本長者番付第33位。楽天やソフトバンクなどIT業界でトップに君臨する大社長である。

福井出身の藤田氏は大学生当時には、毎日雀荘に入り浸り留年までしてしまうような、決して真面目とは言い難い青年だった。その現状に危機感を覚えた藤田氏は人材派遣の広告を売るバイトを始め、アルバイトに見られないようにスーツを着て、会社の名刺も作ってもらい、一般社員同様に飛び込み営業をしていく。のめり込んだらとことんやる性格の藤田氏は一年目で社内トップの営業成績を収める。仕事の楽しさに目覚めた藤田氏は、大学卒業後バイト先のライバル会社に就職。始発便で出社し、最終便で退勤する生活を入社一日目から1年間続け、圧倒的な営業成績を残す。しかし起業を思い立った藤田氏は具体的な事業計画を持たないまま入社一年後に退社を決断する。当時アメリカから日本に入ってきた、インターネットに無限の可能性を感じた藤田氏は、営業スキルという自身の強みを活かしてプログラマーの作ったシステムを紹介販売する会社を発案し、インターネットの営業会社としてスタートする。その後、ネットバブルが弾け株主から叩かれ死にそうな日々を経て、いまの大会社に成長していく15年間の前半7〜10年を綴ったドキュメントである。藤田氏は次のように語る。「私は週110時間労働を目標に掲げます。始めたばかりの会社は取引も少なく、意外とやることが無く暇なのです。ところが、長い拘束時間が定められているので、あまった時間に顧客見込みリストを作成したり、新規事業プランコンテストを行ったり、苦手な技術や経理に関する勉強をすることにしました。そうしていると徐々に、業績が伸び、新規事業が生まれ、やがて本当に忙しくなっていったのです」

今の時代、このようなハードワークはなかなか受け入れてもらえないかもしれません。しかし、いつの時代も人より特別に大きな成果を出したければ、ハードワークしかありません。

フクヤが住宅業界に本格的に参戦をした2000年から3年程経った時期にこの本と出会い、藤田氏のマネをしスタッフと夜23〜24時まで他社のカタログを見たり、HPを自作したりした記憶がある。「どんな人生を歩むか」「どう仕事と向き合うか」それを他社に押し付けることは今の時代はできないが、本書は2024年11月に控えた上場を目指すきっかけでもあり、また何より「わたしにとっての仕事とは何か」を気づかせてくれた大切な一冊である。

渋谷ではたらく社長の告白
出版社：幻冬舎文庫

福家 淳也
1970年高知県高知市生まれ。明治大学商学部卒業。1971年創業の有限会社福家ハウジング（フクヤ建設株式会社へ改称2代目。大学卒業後、東京の会社で営業経験を積み1996年に有限会社福家ハウジングへ入社。6年ほど営業職として働いた後、取締役に就任。現在、フクヤ建設代表取締役社長を務める。

この街に、ワクワクを創造する。

FUKUYAは「建築・不動産で、暮らし・空間・その場所に
新しい価値を生み、ワクワクを創造する」という企業理念のもと
家づくりだけでなく、公共民間事業やカフェ経営など
さまざまな事業を展開しております。

東証上場 TOKYO STOCK EXCHANGE LISTED JPX

2024年11月
東京証券取引所に
上場いたしました

【資料請求・問い合わせ】

家づくりに関するお問い合わせ・資料請求はこちら。個人情報の入力なしで、アンケートに答えてご覧いただけるweb 簡易版パンフレットもご利用いただけます。

こちらから→

フクヤ建設 公式LINE からもお気軽に お問合せできます

公式 Instagram

ライフスタイルマガジン「Fuu」は、フクヤ建設の家、ひと、暮らしを発信します。日々さまざまな角度から「暮らし」を考え、提案するわたしたちのお届けする情報が、あなたの暮らしに、新しい風を吹かせますように。そして「ふぅ」と一息つくほっとした時間に、このマガジンを手にしていただけるとうれしいです。公式 Instagramでは、誌面には載せきれなかった写真をギャラリーのように掲載しております。

melbaの、おやつ。

デザート監修
melba 上園さん

南国市でテイクアウト専門のケーキ屋さん「melba」をひとりで営む。旬のくだものを使ったタルトやショートケーキなど、素材にこだわったシンプルなケーキが人気を呼び、オープン時には行列ができるほどの人気店。ご縁から、お店の傍らFLAG のデザートメニュー全般の監修を担当している。

本社２階社食ランチが
食べられるカフェ

CAFE FLAG

@bistrocafe_flag

しっとり濃厚なのに、サクっと軽い食べ心地。

上園さんが監修したFLAGのデザートメニューのひとつ、ガトーショコラ。カフェタイム（14：30～）から、ディナータイム（18：00～）まで提供している定番のデザートだ。ずっしりとした見た目によらず食べ心地は軽やかで、食後でも不思議とぺろりと食べられてしまう。軽やかな食べ心地の秘訣は、生地作りや焼き加減の絶妙なバランス。焼きっぱなしのシンプルなクラシックタイプのガトーショコラだからこそ、長年焼き続ける上園さんですらも、常に探求を続けているのだという。周りはサクっと、中には少しレアなやわらかさが残る絶妙なバランスの触感は、まさに黄金比。お皿に添えられた生クリームやジャム、旬のフルーツとの相性も、ぜひ楽しみながらお召し上がりくださいね。

CAFE FLAGは**土日限定**で**ディナー営業**も開始しました！

お酒に合うアラカルトや前菜、ピザやお肉料理おつまみメニューを用意しております。

※最新情報はInstagramにてご確認ください

ディナータイム
18:00～21:00